

近隣の先生方へ

救急のご相談は
03-3480-1151 (代表)

先生方からの急患のご相談に対して、円滑に対応させていただくため
電話窓口を代表電話に一本化いたしました。お話が早く伝わります。

日中(9:00~17:00)は、救急部または専門科医師へお繋ぎします。
夜間(17:00~9:00)・休日は、救急科へお繋ぎします。

救急のご相談のある先生は、

救急での受診依頼とお伝えください。
救急部、または専門科医師へお電話をお繋ぎします。



Cardiology
JIKEI 慈恵医大 第三病院

循環器内科 ホットライン

070-3914-2704

循環器内科スタッフが直接対応致します

※2023年10月から携帯電話番号を変更致しました

(万一、つながらない場合は、
慈恵医大第三病院 代表電話 03-3480-1151
救急室までお願い致します)

特に
心疾患

循環器内科
ホットライン OK
070-3914-2704

当院の循環器内科は、東京都CCUネットワークに加盟しております。
緊急の患者さんのご紹介は勿論のこと、患者さんご紹介のタイミングや、
診療のご相談も、お気軽にご連絡ください。

ホットラインは、循環器内科のスタッフへ直通です。

万一、繋がらない場合は代表電話 **03-3480-1151** へ お願い致します。

■東京慈恵会医科大学附属第三病院

〒201-8601 東京都狛江市和泉本町4-11-1

TEL 03-3480-1151 代表(内線3804・3830)

TEL 03-3430-3600 医療連携室直通

FAX 03-3430-3611 医療連携室



医療連携室だより



メディカルリンク

東京慈恵会医科大学附属第三病院

48号 2025年6月

■院長ご挨拶

2025年4月1日付で院長を拝命しました平本淳でございます。これまで通り、地域の
中核病院として努力いたして参りますのでよろしくお願いいたします。

東京慈恵会医科大学附属第三病院は、2025年9月に新病院が竣工し、2026年1月から
東京慈恵会医科大学西部医療センターとしてリニューアルオープンします。地上8階、
地下1階で1、2階が外来、3階が手術室、集中治療部門、4階に透析室、リハビリテーショ
ン室、4階～7階までが病室で、494床になります。23の診療科および11の中央診療
部門は変更ありません。

東京慈恵会医科大学附属第三病院は「地域医療支援病院」の指定を受けています。
地域の先生方から患者さんを紹介していただき、落ち着いたら先生方に逆紹介するこ
と、救急患者を診ることが使命です。そのため、1階に初診、救急、小児科を集め、
初診患者が動きやすい動線を確認しました。救急室はCT室が隣に、内視鏡室、手術室、集中治療室にも専用のエレベ
ーターで移動できます。新病院では24時間365日血管内治療もできる脳卒中センターも開設します。詳細は、本号の特
集をご覧ください。また、東京慈恵会医科大学附属第三病院は、「東京都のがん診療連携拠点病院」にも指定されて
おり高いレベルのがん診療を心がけています。外来治療室の強化、がん相談をはじめとし、新病院では大学病院とし
て珍しい、緩和ケア病棟も開始します。また手術室を増設、最新の機械も導入、デイサージェリーセンターも開始、
緊急手術への対応も強化してゆく予定です。今年度は9診療部門で責任者の交代がありました。新病院に向けて、若
返りパワー全開で頑張っております。新病院では建物のリニューアルだけでなく、地域との絆を深め、地域の病病、
病診連携を確固たるものにしたいと考えています。今後とも新病院のことを含めて、医療連携フォーラムやメディカ
ルリンクを通じて地域の皆様に情報発信して参りますので、益々のご指導、ご鞭撻、よろしくお願いいたします。



東京慈恵会医科大学附属第三病院
病院長
平本 淳

■副院長ご挨拶

近隣の先生方には日頃より大変お世話になっております。このたび、今年度より副
院長を拝命いたしました。医療連携と災害対策を担当させていただきます。副院長と
しての責任の重さを感じるとともに、地域に貢献できる病院を目指して、医療連携と
災害対策の強化に取り組んでまいります。特に医療連携は、当院の重要な役割である
と考えています。地域住民とともに歩める医療を実践して行きます。そのために、①新
病院に向けた「6つの領域での診療センター化」へ対応した診療科の連携、②近隣医療
機関へのターゲットを絞った訪問による医療連携の強化、③医師と患者のエンゲージメ
ントを向上させ必要な医療を適切なタイミングで提供できる体制づくり、を推進して
まいります。地域医療支援病院として、住民の皆さまがこれまで以上に安心して医療
を受けられるよう努力してまいります。また、北多摩南部の災害拠点病院としての責
務を果たすべく、地域防災力の向上にも取り組みます。今後とも変わらぬご指導、ご
支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



整形外科 診療部長
副院長
藤井 英紀

《2026年1月「(仮称)東京慈恵会医科大学 西部医療センター」へ生まれ変わります》

トピックス①

脳卒中センターのご紹介

脳神経内科ではこれまで、脳卒中をはじめ、パーキンソン病や脊髄小脳変性症といった神経変性疾患、筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの難病に対する在宅医療支援、さらには多発性硬化症や視神経脊髄炎などの神経免疫疾患まで、幅広い神経疾患の診療に取り組んでまいりました。

中でも脳卒中診療においては、急性期治療にとどまらず、再発予防、リハビリテーション、さらには認知機能や嚥下機能の包括的評価を通じて、患者さんの社会復帰や生活再建を力強く支援しています。単に“命を救う”にとどまらず、“その後の人生を支える”——そうした「つなぐ医療」の実践こそが、脳神経内科の真髄であると私たちは考えています。

このたび 2026 年の新病院開設に合わせて、「脳卒中センター」および「ストロークケアユニット（SCU）」を新設する運びとなりました。これは急性期脳卒中医療の質を飛躍的に向上させるための、極めて重要な一歩です。地域の医療機関の先生方との連携を一層深め、地域全体で脳卒中診療の質向上を目指す体制を築いてまいります。

脳卒中は、発症直後の初期対応のスピードと的確さが予後を大きく左右することは言うまでもありませんが、発症後の全身管理や再発予防、機能回復支援など、内科的視点を持った継続的な管理もまた極めて重要です。私たち脳神経内科は、新病院への移転に伴い、急性期脳卒中診療の中核を担うSCUの運営を、脳神経外科と連携しながら中心的に担ってまいります。

SCUは、脳卒中専門の集中治療ユニットであり、24時間体制で全身管理と専門治療を行う施設です(図1)。当院では、4床のSCU病床を設置予定で、そのうち1床は感染症対応にも配慮した設計となっています。SCUの開設により、脳

図1 SCU予定図



図2 Perfusion CT



Deep Learningを応用した超解像画像再構成技術
AI技術を活用した、モーションアーチファクト低減技術

0.5mm × 320row / 640 Slice



神経内科・脳神経外科・リハビリテーションといった脳卒中診療に必要な機能が一体化され、質の高い包括的医療が実現されます。

とりわけ、tPA 静注療法や血管内治療といった時間依存性の高い治療には、神経学的所見と画像所見を総合的に判断する能力が求められます。今回新たに導入される最新のパーフュージョンCT(図2)は、急性期脳梗塞の病態を精緻に評価し、適切な治療方針を導く上で、非常に強力な武器となります。とくに虚血コアとペナンプラの正確な識別により、発症から時間が経過した症例においても、血管内治療の適応を的確に判断することが可能になります。

また、脳神経内科では超急性期の血管再開通治療にとどまらず、抗血小板療法や抗凝固療法、脂質異常症・高血圧・糖尿病などの包括的なリスク管理、そして再発予防に至るまで、一貫した診療体制を整備してまいります。特に、心房細動の早期発見と適切な抗凝固療法の導入、大血管病変（頸動脈狭窄症など）の評価と治療選択など、脳神経内科の専門性を最大限に生かした診療を展開します。

さらに、脳卒中後の合併症である脳血管性認知症、てんかん、頭痛などへの包括的な対応も、脳神経内科の強みを生かして取り組んでまいります。急性期からの摂食・嚥下機能評価と栄養管理、早期リハビリテーションの介入を通じて、患者さんのQOL向上と早期社会復帰を力強く後押ししていきます。

教育・研究の分野においても、当科の役割は重要です。私たちは、最新の画像診断技術やAI技術を活用した急性期脳梗塞の診断アルゴリズムの開発、血栓回収療法の適応拡大に関する臨床研究など、常に最先端の知見を取り入れた研究活動を脳神経外科ならびにリハビリテーション科と連携しながら推進していきます。また、予防医学的視点からの取り組みも重視しています。こうした研究成果を実臨床へと還元し、脳卒中診療の質的向上を図ってまいります。

脳卒中センターの開設は、地域の皆さまにとって大きな福音となるものと確信しております。私たち脳神経内科は、センター開設に先立ち、地域医療機関や救急隊との連携強化、市民公開講座などを通じた啓発活動にも積極的に取り組んでまいります。「脳卒中は発症直後の対応が命を左右する」という基本原則を一人でも多くの方々にご理解いただき、一人でも多くの命を救うため、努力を重ねてまいります。

脳神経内科一同、新たに開設される脳卒中センターを通じて、より高度かつ患者さん中心の医療を提供すべく、日々研鑽を積んでまいります。地域の皆さまに、より安心して暮らしていただけるよう、全力を尽くしてまいります。

《2026年1月「(仮称)東京慈恵会医科大学 西部医療センター」へ生まれ変わります》

トピックス②

脳卒中センターのご紹介

東京慈恵会医科大学附属第三病院は、地域の急性期医療を支える500床規模の大学病院として、長年にわたり多くの患者さんの診療に携わってまいりました。そうした中で、現在進行中の新病院建設にあわせ、2026年には新たに「脳卒中センター」を開設する運びとなりました。このセンターは、地域の皆さまが脳卒中を発症された際に、できる限り迅速かつ的確な医療を受けていただけるよう体制を強化するものであり、東京慈恵会医科大学附属第三病院の診療体制にとっても、大きな節目となる取り組みです。

脳卒中は、日本における主要な死因のひとつであると同時に、介護が必要となる原因としても高い割合を占めています。新たに開設される脳卒中センターでは、脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血など、あらゆる急性期脳卒中に対して、より迅速かつ高度な対応が可能となるよう、多職種が連携した総合的な医療体制を整備していきます。診断から治療、さらにはリハビリテーションまでを切れ目なく支援できる体制を築くことを目指しております。

今回新たに開設される脳卒中センターでは、これまで当院にはなかった最先端の医療機器を導入することで、診断および治療の精度・安全性を大幅に高めることを目指しています。その一つが、シーメンス社製の多目的血管撮影装置「Artis-icono」です(図1)。この装置は、AI 技術を活用した被ばく線量の自動調整機能を備え、患者さんへの負担を最小限に抑えながら、非常に高精細な画像を提供できるという点で、世界的でもトップレベルの性能を誇ります。また、上肢(腕)からのアプローチにも対応するなど、より低侵襲で安全な治療を実現することができます。これにより、治療時間の短縮や合併症のリスク軽減が期待でき、患者さんにとっても大きなメリットとなると考えております。当院ではこのArtis-icono を含めた血管撮影装置を合計2台導入する計画としており、これは大学病院としての診療体制をより充実させる上で非常に大きな役割を持ちます。複数の緊急症例が同時に搬送された場合でも、2台体制によって治療を並行して行うことが可能となり、迅速かつ的確な対応が可能になります。また、緊急対応時の柔軟な運用が可能になることで、医療従事者側の負担軽減にもつながり、全体としての医療の質と効率の向上に寄与することが期待されます。

手術機器においても、今回の新病院移転に伴い、世界最先端の技術が搭載された手術用顕微鏡を導入予定です。具体

図1



脳神経外科
診療部長 加藤 直樹

的には、Zeiss社の最新モデル「KINEVO 900S」を採用する予定で、この機器は2025年に日本国内に導入されたばかりの最新鋭の顕微鏡です(図2)。蛍光造影による血流評価機能を搭載しており、手術中にリアルタイムで血流状態を可視化できることから、脳動脈瘤や脳腫瘍の手術における安全性と正確性が大幅に向上します。加えて、ロボットアシストによる自動制御機能を有しており、術者が安定した視野を保ちながら繊細な操作を行うことができるため、特に高難度の手術において非常に有用です。術者の熟練度を最大限に引き出しながら、より安全で精密な手術を実現できるという点で、大きな期待を寄せております。

図2



さらに、急性期脳梗塞における診断精度の向上を目的として、新型の perfusion CT (脳血流検査装置) も導入される予定です。従来のCTに比べ、画像処理速度と解像度が飛躍的に向上しており、脳内の血流状態や虚血領域(コア)と周囲のペナンプラの状態を迅速かつ正確に評価することが可能となります。これにより、tPA (血栓溶解薬) 静注療法や血管内治療の適応を的確に判断できるようになり、より多くの患者さんに対して、タイムリーで効果的な治療を提供できる体制が整います。

新病院では、急性期脳卒中に対する初期対応と集中的な管理に特化した「ストロークケアユニット(SCU)」が新たに設置される予定です。このSCUの設立により、救急搬送後すぐに、画像診断や血管内治療が行える環境と、集中的なモニタリング・管理体制とが一体となり、発症直後からの切れ目のない治療が可能となります。さらに、東京慈恵会医科大学附属第三病院では、早期からのリハビリテーション介入を積極的に取り入れることで、患者さんが再び家庭や社会に戻ることを見据えた包括的なケアを提供することを目指しています。

また、東京慈恵会医科大学附属第三病院にはすでに高い専門性を有する脳神経内科と、地域内外から高く評価されているリハビリテーション科が存在しています。これらの診療科と脳神経外科がしっかりと連携し、さらに看護師、薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカーなどを含めたチーム医療を構築することで、脳卒中の診断・治療だけでなく、生活支援、再発予防、リハビリテーション、社会復帰支援といった、患者さん全体を支える医療が実現します。

さらに、大学病院としての使命の一つである「教育」と「研究」にも引き続き力を入れてまいります。これからの医療を支える若手医師が、実際の現場で安全に血管内治療の技術を学び、経験を積むことができる環境を整備することは、次世代の医療の質を高めるうえで重要と考えられます。SCU や最新機器を活用しながら、症例ごとの治療経過や成績を体系的に蓄積・分析し、学会や論文を通じてその成果を発信していくことにも注力していきたいと考えております。

私たちは、地域に根ざした大学病院として、高度であっても患者さんにとって敷居の低い医療を目指しております。地域の皆さまに信頼される医療を提供し、安心して暮らしていただけるよう、スタッフ一同力を合わせて取り組んでまいります。

新診療部長のご挨拶

腫瘍・血液内科

略歴

1994年 東京慈恵会医科大学 卒業
1994年 NTT関東通信病院 内科研修医
1996年 東京慈恵会医科大学 内科学講座第三 医員
1999年 国立がんセンター中央病院 がん専門修練医
2001年 東京慈恵会医科大学 内科学講座 助手
2006年 米国国立衛生研究所留学(フェロー)
2009年 東京慈恵会医科大学附属病院 腫瘍・血液内科診療医員 助教
2014年 東京慈恵会医科大学附属病院 腫瘍・血液内科診療医長 講師
2019年 東京慈恵会医科大学附属病院 腫瘍・血液内科診療医長 准教授
2021年 東京慈恵会医科大学附属病院 腫瘍・血液内科診療医長 教授
2024年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 腫瘍・血液内科医長
2025年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 腫瘍・血液内科診療部長

資格・所属学会

- 日本内科学会認定医・総合内科専門医
- 日本血液学会認定血液専門医・評議員
- 日本造血・免疫細胞療法学会
造血細胞移植認定医・評議員
- 日本腫瘍循環器学会評議員
- がんサポーターケア学会
- 米国血液学会

専門分野

- がん化学療法
- 造血幹細胞移植療法



診療部長
齋藤 健

2025年4月1日付で慈恵医大附属第三病院腫瘍・血液内科診療部長に就任した齋藤健です。造血器疾患の予後は年々向上してきています。その背景には、①新規治療薬の登場と、②さまざまな造血幹細胞移植方法の開発による移植療法の進歩があります。2026年1月に慈恵医大西部医療センターが開院するのに伴い、当診療科ではいよいよ造血幹細胞移植の運用を開始します。我々は、造血器疾患の予後を改善させてきた2本の柱、新規治療と造血幹細胞移植に注力して、腫瘍・血液内科をさらに発展させていきたいと考えています。重要なのは、他科専門診療科や多職種との連携、地域医療との結びつきだと思います。血液疾患の患者さんは、自分で「血液の病気だ」と思うのですが・・・」と言って我々の診療科を受診することはありません。ほとんど全ての場合、近隣医療機関からの紹介受診になります。慈恵医大第三病院腫瘍・血液内科がこれから進めていこうと考えている新規治療薬の導入や造血幹細胞移植を進めていく上で、近隣医療機関に信頼してもらうには「顔の見える関係性」が極めて大切だと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

総合診療部

略歴

2007年 東京慈恵会医科大学 卒業
2007年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 初期臨床研修
2009年 東京慈恵会医科大学内科レジデント
2011年 東京都立多摩総合医療センター
シニアレジデント(救急、リウマチ膠原病内科)
2012年 東京慈恵会医科大学内科学講座総合診療部 助教
2025年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 診療部長

資格・所属学会

- 日本専門医機構
総合診療専門医・指導医
- 日本内科学会 認定医・総合内科専門医
- 日本老年医学会 老年科専門医
・指導医・高齢者栄養療法認定医
- 日本プライマリ・ケア学会 認定医・指導医
- 病院総合診療医学会 認定医・特任指導医
- 日本結核非結核性抗酸菌症学会 認定医
- 日本感染症学会
- 日本リウマチ学会
- 日本認知症学会



診療部長
泉 祐介

2025年4月1日付で慈恵医大附属第三病院総合診療部診療部長に就任いたしました泉祐介です。私は慈恵医大を卒業後、東京慈恵会医科大学附属第三病院で初期臨床研修を行い、本院での内科研修や東京都立多摩総合医療センターでの救急及びリウマチ膠原病内科での研修を経て2012年4月より東京慈恵会医科大学附属第三病院の総合診療部医局員として現在に至るまで長くこの地域の医療に携わってまいりました。診療の中で様々な患者さんの訴えに応えられるよう自身の能力の向上に励み、また感染症、低栄養、認知症、院内急変などに対応する横断的チーム医療に参加することで多くの入院患者さんに貢献すべく尽力してまいりました。

超高齢社会となった日本では、包括的かつ全人的な診療能力を持った医師の必要性が高まり、2018年に総合診療専門制度が新設されました。我々は、外来診療においては地域の先生方から幅広い主訴の患者さんを受入れることを使命と考え診療を行い、入院診療においては診断が困難な方や複数臓器に障害を持つ方、内科一般疾患や炎症性疾患の診療を行うとともに緩和ケア病床も運用しております。2026年1月に診療開始を予定している新病院では、当科が主となり緩和ケア病棟を運用いたします。地域の基幹病院の総合診療医として、「患者さんの病気を診療する」のではなく「病気をを持った患者さんを診療する」というコンセプトを大切に、さらに地域にお住いの方々や近隣医療機関の先生方に貢献できるよう日々尽力していく所存です。

循環器内科

略歴

1998年 東京慈恵会医科大学 卒業
1998年 東京慈恵会医科大学附属病院 臨床研修医
2000年 東京慈恵会医科大学附属病院 循環器内科レジデント
2003年 東京慈恵会医科大学附属病院 循環器内科 入局
2004年 東京慈恵会医科大学附属青戸病院 循環器内科
2006年 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 循環器内科
2013年 東京慈恵会医科大学附属柏病院 循環器内科
2022年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 循環器内科 診療医長
2025年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 循環器内科 診療部長

資格・所属学会

- 日本内科学会認定内科医
・総合内科専門医・内科指導医
- 日本循環器学会認定循環器専門医
- 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医
・評議員
- 厚生労働省認定臨床研修指導医
- 日本臨床倫理学会臨床倫理認定士
- 日本救急医学会認定ICLS
・BLSコースインストラクター

専門分野

- 不整脈



診療部長
宮永 哲

2025年4月1日付で慈恵医大附属第三病院循環器内科診療部長に就任いたしました宮永哲です。私は慈恵医大の附属4病院すべてと、派遣病院としての埼玉県立循環器・呼吸器病センターにおいて、不整脈を中心に診療を続けて参りました。その経験を活かして、東京慈恵会医科大学附属第三病院の良い点は伸ばしつつ、ご紹介頂く患者さんや救急の患者さんにしっかりと対応できるように、診療体制を強化しています。「頼りがいがあり、相談しやすい東京慈恵会医科大学附属第三病院」を目指して、当番のスタッフが常に循環器内科ホットラインの携帯電話端末を持って対応していますので、緊急の患者さんのご紹介はもちろんのこと、患者さんご紹介のタイミングや診療のご相談もお気軽にご連絡ください(ホットライン携帯電話番号 070-3914-2704)。取り次ぎなどでお待たせすることなく、ワンストップで直接循環器内科のスタッフにつながりますので、先生方のご相談相手としてご利用頂ければと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

精神神経科

略歴

1997年 東京慈恵会医科大学医学部 卒業
1997年 東京慈恵会医科大学附属病院 研修医
1999年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 精神神経科 医員
2000年 総合病院 湘南病院 精神科
2003年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 精神神経科 助教
2018年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 精神神経科 医長
2025年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 精神神経科 診療部長
認知症疾患医療センター長

資格

- 精神保健指定医
- 日本精神神経学会 専門医・指導医

所属学会

- 日本精神神経学会 ●日本森田療法学会
- 日本老年精神医学会 ●日本認知症学会

専門分野

- 森田療法
- 老年精神医学



診療部長
矢野 勝治

2025年4月1日付で精神神経科診療部長、認知症疾患医療センター長に就任いたしました矢野勝治と申します。東京慈恵会医科大学附属第三病院には2003年に着任し、2008年からはもの忘れ外来を担当しております。

森田療法センターは、森田療法に関する診療・教育・研究の先端的な役割を担い、国際的なセンターとして普及と発展に寄与することを目的としており、全国から来院される患者の診療とともに、多くの留学生・研究生を受け入れて参りました。現在は外来での森田療法以外にも、通所でのグループ療法と体験を重視したショートケアを行っております。

近年は東京慈恵会医科大学附属第三病院でも入院患者は高齢化し、認知症を合併された方や入院中にせん妄を併発される方が多くなりました。コンサルテーション・リエゾンや認知症ケアチーム活動を通して、安心して入院して頂けるよう努めてまいります。また認知症治療においては、抗アミロイドβ抗体薬を用いたアルツハイマー病治療も行っており、近隣の先生方からも患者さんをご紹介頂いております。

精神医学やメンタルヘルスの問題は医療や社会の様々な問題と密接に関わり、以前にも増して大きな意味を持つようになっていきます。地域の医療に少しでも貢献できるよう多くの皆様と力を合わせていきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

□ 小児科 □

略歴

2002年 東邦大学医学部 卒業
2004年 東京機慈恵会医科大学小児科学講座 入局
2008年 東京慈恵会医科大学 大学院
2008年 米国 テキサス小児病院 小児循環器部門留学
シンシナティ小児病院 Heart Institute
2012年 東京慈恵会医科大学附属柏病院 小児科
2015年 ロンドン日本クラブ診療所
2019年 東京慈恵会医科大学附属柏病院 小児科
2025年 東京慈恵会附属第三病院 小児科 診療部長

資格

●小児科専門医



診療部長
高木 健

2025年4月1日より東京慈恵会医科大学附属第三病院小児科の診療部長に就任した高木健と申します。私の専門は小児循環器で心筋症の研究を行っていました。留学では心筋症の原因となる遺伝子変異の同定と運動中に誘発される致死的不整脈のマウスモデルの作成に携わりました。帰国後も大学にて小児循環器疾患の診療を中心に家族支援チームのメンバーでした。家族支援チームではソーシャルワーカーと協力し、虐待の対応にまい進し、いろいろと複雑な家庭環境を多く見てきました。その中で大学病院の役割は限定的であり学校、保健師、警察、児童相談所との連携が必要不可欠だと実感しました。東京慈恵会医科大学附属第三病院が地域の機関と連携を強固のものにし、こどもとその家族が安心して健康的な生活が出来るように貢献したいと思います。

自分自身は海外で幼少期を過ごし、留学の経験とロンドン日本クラブ診療所（現在閉院）で英国およびヨーロッパ、アフリカ、中東に在住の日本人駐在員とその家族の健康維持に従事してきました。その経験を踏まえ英語での診療や外国籍の家族の対応も喜んで致します。海外転勤や外国での子育てや医療事情などの相談も承ります。

近隣のクリニックの先生方と協力し東京慈恵会医科大学附属第三病院小児科が狛江市、調布市の地域医療をサポートできるように日々精進していきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

□ 脳神経外科 □

略歴

2003年 東京慈恵会医科大学 卒業
2004年 東京慈恵会医科大学附属青戸病院(葛飾医療センター) 脳神経外科
2006年 富士市立中央病院 脳神経外科
2007年 東京慈恵会医科大学附属柏病院 脳神経外科
2009年 医学博士受領
2011年 Charité - Universitätsmedizin Berlin 脳神経外科留学
2013年 厚木市立病院 脳神経外科 医長配属
2018年 東京慈恵会医科大学附属病院 脳神経外科診療 医長
2025年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 脳神経外科 診療部長

専門領域

●脳血管障害
●脳血管内治療
●手術支援(イメージング、神経モニタリング)

認定資格

●日本脳神経外科学会専門医・指導医
●日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医
●神奈川DMAT-L隊員
●日本脳卒中の外科学会技術認定医
●日本脳神経血管内治療学会専門医
●日本脊髄外科学会認定医
●脊椎脊髄外科専門医



診療部長
加藤 直樹

この度、東京慈恵会医科大学附属第三病院 脳神経外科の診療部長を拝命いたしました加藤直樹と申します。東京慈恵会医科大学附属第三病院は約500床を有する大学病院として、専門性の高い医療を提供しつつ、地域の皆さまに寄り添う「地域密着型病院」を目指して歩んできました。来年には新病院への移転が予定されており、それに伴い脳卒中センターも新たにスタートいたします。地域の脳卒中診療の要となることが求められる中で、脳神経外科としても新たな一歩を踏み出す大きな機会になると感じております。私はこれまで、脳血管障害を中心に診療に携わり、血管内治療や神経モニタリングなどを取り入れながら、安全で質の高い医療を追求してまいりました。ドイツ・ベルリンのシャリテ医科大学での留学経験から得た視野も、今後の診療体制づくりに活かしていきたいと考えています。診療・教育・臨床研究の三本柱を大切にしながら、スタッフ一人ひとりの力を活かせるチームづくりを進めてまいります。若手医師がのびのびと学び、成長できる環境を整えるとともに、日々の診療から生まれる気づきを大切にした臨床研究にも力を入れていきます。地域の医療機関との連携も一層深め、信頼される脳神経外科を目指してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

□ リハビリテーション科 □

略歴

2012年 東京慈恵会医科大学 卒業
2014年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科 診療医員
2015年 西広島リハビリテーション病院 リハビリテーション科 診療医員
2017年 青森新都市病院 リハビリテーション科 医長
2019年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科 診療医員
2020年 厚生労働省 老健局老人保健課 高齢者リハビリテーション推進官
2022年 厚生労働省 保険局医療課 課長補佐
2024年 東京慈恵会医科大学附属病院 リハビリテーション科 診療医員
2025年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科 診療部長

資格

●日本リハビリテーション医学会 専門医・指導医・代議員
●日本スティミュレーションセラピー学会 評議員
●義肢装具等適合判定医

専門分野

●ニューロリハビリテーション
●医療介護障害福祉連携



診療部長
木下 翔司

2025年4月1日付で東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション科診療部長に就任致しました木下翔司です。私は慈恵医大卒業、この東京慈恵会医科大学附属第三病院での初期臨床研修を経て、広島や青森といった地域での診療に従事するとともに、厚生労働省での医系技官としての勤務経験を踏まえ、ニューロリハビリテーション及び医療介護障害福祉連携を専門として臨床・研究・教育に従事してまいりました。

東京慈恵会医科大学附属第三病院は、急性期から地域での生活までを見据えたリハビリテーション医療を提供しており、中でも高次脳機能障害に対する包括的支援や、反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）治療を用いた先進的ニューロリハビリテーションを特色としています。患者さんの「できること」を最大限に引き出すこと、そして「その人らしい生活」を取り戻すことを目指した診療を重視しています。また、東京慈恵会医科大学附属第三病院は東京都からの委託を受け、高次脳機能障害支援普及事業の拠点病院としても機能しており、医療と福祉の連携を通じた地域支援体制の強化にも取り組んでいます。地域の医療機関や介護・福祉事業所との連携を一層深めながら、患者さんにご家族が安心して地域で暮らせる仕組みづくりを推進してまいります。今後とも、患者さんにご家族、そして地域の医療機関の皆さまとの信頼関係を大切にしながら、地域に根ざした質の高い医療の提供に当科スタッフ一同全力で努めてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

□ 麻酔科 □

略歴

2002年03月 東京慈恵会医科大学 卒業
2002年05月 東京慈恵会医科大学附属病院 研修医
2004年04月 東京慈恵会医科大学附属病院 麻酔科学講座助教
2009年04月 東京慈恵会医科大学附属病院 麻酔科学講座 副医局長
2015年08月 東京慈恵会医科大学附属第三病院 麻酔部 診療部長代行
2023年05月 東京慈恵会医科大学麻酔科学講座講師
2025年04月 東京慈恵会医科大学病院第三病院 麻酔部 診療部長

資格

●日本麻酔科学会専門医
●日本麻酔科学会指導医
●日本区域麻酔科学会認定医

専門分野

●区域麻酔
●脊髄幹麻酔



診療部長
内海 功

2025年4月より、東京慈恵会医科大学附属第三病院麻酔科の診療部長を拝命いたしました内海 功です。私の専門は区域麻酔や脊髄幹麻酔、いわゆる神経ブロック、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔などです。この20年間で薬剤や医療機器は大きく進歩し、全身麻酔はかつてに比べて格段に安全に実施できるようになりました。一方、近年は高齢者の割合も高く、全身麻酔によるリスクをできる限り回避したいと考えられる症例も少なくありません。そのような場合には、区域麻酔を積極的に活用することで、より安全な麻酔管理に努めています。また、全身麻酔下においても、術後の疼痛管理に区域麻酔を併用することで、術後の痛みの軽減にも力を入れています。

近年では経口抗凝固薬（DOAC）の利便性と安全性から、高齢の患者さんを中心にその服用率が増加して増加していることにより、休薬期間が不十分なために深部への区域麻酔や脊髄幹麻酔を実施できないケースも増加傾向にあります。そのような場合には、麻薬を使用した自己調節鎮痛法（iv-PCA: intravenous patient-controlled analgesia）を導入し、患者さんご自身で静脈内に鎮痛薬を投与できるようにすることで、術後の疼痛を緩和しています。

いまだに「手術したのだから痛いのは仕方がない」とってしまう患者さんも医療従事者も多くいます。しかし、術後の痛みに対する不安をお持ちの患者さんは少なくありません。麻酔科ではそれぞれの症例に適した術後鎮痛法を選択することで、より安心して手術に臨んでいただける環境づくりを心がけています。

さらに、新病院ではロボット麻酔システムの導入も予定しており、今後より一層、安全性の高い麻酔の提供に努めてまいります。

手術部

略歴

1993年 東京慈恵会医科大学 卒業
 1999年 富士市立中央病院 外科 診療医員
 2001年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 外科 診療医員
 2003年 米国Terasaki Foundation Laboratory留学
 2009年 国立病院機構西埼玉中央病院 外科 診療医長
 2011年 東京慈恵会医科大学 外科学講座 診療医員
 2013年 東京慈恵会医科大学 外科学講座 診療医長
 2015年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 外科診療医長
 2025年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 手術部 診療部長(兼任)

資格

- 日本外科学会指導医
- 日本消化器外科学会指導医
- 日本肝胆膵外科学会高度技能指導医

専門分野

- 肝胆膵外科



診療部長
二川 康郎

2025年4月1日付で東京慈恵会医科大学附属第三病院手術部診療部長を拝命した二川康郎です。私は慈恵医大を卒業後、富士市立中央病院、国立西埼玉中央病院、そして東京慈恵会医科大学附属第三病院など地域密着型の病院を中心に外科医として勤務してきました。

東京慈恵会医科大学附属第三病院は大学附属病院として先端医療を提供できる体制をもちながらも、地域に根差した医療を展開していくことが期待されていると考えます。来年度には新病院がセンター化し稼働いたします。その中で手術治療は大きな役割を果たします。その手術を管理・運営する手術部は病院にとって大変重要な部署です。

現在、各診療科においてより低侵襲な手術が推し進められていますが、歴史の浅い治療方法もあります。高齢化社会を迎え、重篤な合併症をもつ患者さんがいます。皆様のニーズとして緊急手術症例に迅速に対応することも求められます。その中で、いかに手術医療の安全性を保つことは非常に重要です。

各診療科と協力しながら安全管理を徹底するとともに、患者さんの生命を預かる責任をスタッフ一同で感じ、心のかよった満足度の高い手術医療を目指したいと考えます。

何卒、よろしくお願い申し上げます。

慈恵ガジュまる教室の案内(2025年度)

「地域とともに健康を謳歌するまちづくり」を理念として、周辺地域を巻き込んだ「健康」づくりを展開しています。ヘルスケア講演・ヘルスケア相談事業・セミナーなどは「慈恵ガジュまる教室」として開催しております。現在、下記のプログラムを予定しております。皆様お気軽にご参加ください。

開催日	プログラム名	開催日	プログラム名
7月12日(土)	良い睡眠とれていますか？	12月	計画中
9月27日(土)	腰痛予防・改善のために ～自分達でできること～	1月24日(土) または31日(土)	ガジュまる こけら落とし
10月10日(土)	より健康的な皮膚づくりとスキンケア	2月14日(土)	安全にお薬と付き合う方法
11月22日(土)	むくみを改善する方法 ～リンパマッサージ～	3月21日(土)	「健診受けてますか？」～疾病予防に向けた健康診断の結果と食事の関連性～

《問い合わせ先》 慈恵第三健康推進センター事務局 jikeihopcenter@jikei.ac.jp

在宅・入退院支援室より

第42回 看護連携会のお知らせ

- テーマ：「**当院における腹膜透析の現状**」
- 開催日：2025年7月18日(金) 18:30～19:30
- 場 所：東京慈恵会医科大学附属第三病院敷地内
慈恵医科大学医学部看護学科 2階臨床講堂

今回は腎不全看護認定看護師から透析導入時の意思決定支援や腹膜透析を行いながらの療養支援について、実際に地域支援者と連携した事例をご紹介します。



マイナ保険証のご利用案内

当院でマイナンバーカードを始めてご利用する場合は、初診受付または受付B（2階）にてお申し出ください。

当院では、マイナンバーカードを利用した「オンライン資格認証システム」を導入しております。マイナ保険証をご利用されると、正確なデータにもとづく適切な治療や投薬が受けられるほか、手続き不要で高額療養費制度が適用され、限度額を超える窓口でのお支払いが免除となるなどのメリットがあります。



ご利用の流れ

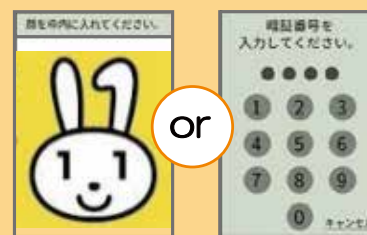
① 受付

マイナンバーカードをカードリーダーに置いてください。



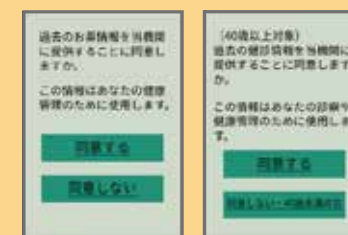
② 本人確認

顔認証または4桁の暗証番号を入力してください。



③ 同意の確認

診察室等での診療・服薬・診療情報の利用について確認してください。



カードリーダーの設置場所・取扱時間

初回登録：初診受付または受付B（2階）でお願いします。

2回目以降：自動再来機の並びにあるカードリーダーをご利用ください。

※初診受付、受付Bでもご利用できます

取扱時間：8:00～17:00（日祝日・大学記念日・年末年始を除く）

※但し、受付Bは16:30迄となります

※マイナ保険証をご利用の方は、毎回必ず診察前にお手続き願います



その他

- 診察の受付は従来通り必要となります。
- 各種医療証（公費負担医療受給者証、乳幼児医療証、特定疾患療養受療者証など）の確認はマイナ保険証で行うことが出来ないため、必ず全ての原本を窓口にてご提示ください。

※マイナ保険証の詳細は、厚生労働省のホームページでご確認ください。
 (URL：http://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08277.html)

